

保険の基礎

【不確実性下での意思決定】

例

状態	s_1	s_2
確率	p_1	p_2
行動	利得	
a_1	y_{11}	y_{12}
a_2	y_{21}	y_{22}

【聖ペテルスブルグの逆説】

参加料を払って、賭けに参加。

賭けでは、コインを投げる。表が出ると賭けは終了。それまでにコインを投げた回数 N に応じて、 2^N 円を受け取る。

いくらなら以下の賭けに参加するか？ この賭けの期待利得は無限大なのだが...

【期待効用最大化】

利得 y から得られる効用を U

S 個の状態が起こる可能性がある不確実性下の状況を考える。各状態 s_i ($i=1, \dots, S$) が生じる確率を p_i とする。 y を状態 s の関数として、期待効用最大化仮説は、個人が

$$U = \sum_{i=1}^S p_i U(y(s_i))$$

を最大化するよう行動すると考える

【文献】

西村周三, 『保険と年金の経済学』, 名古屋大学出版会